

# 放牧を中心とした肉用牛生産拡大の取り組み

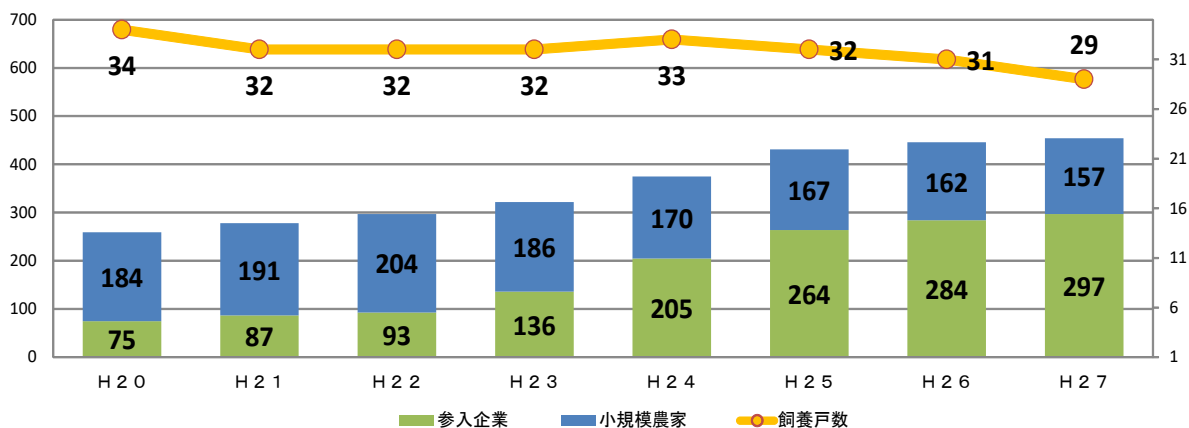
隠岐支庁農林局農政・普及部

## 1 課題の背景とねらい

隠岐の島町では、放牧による和牛繁殖経営が盛んですが、高齢化、後継者不足により飼養戸数は減少傾向にあります。一方で、近年、畜産業への企業参入により繁殖牛飼養頭数は増加しており、参入企業が和牛繁殖の重要な担い手となっています。

そこで、農政・普及部では、肉用牛生産拡大による産地の活性化を図るため、増頭に対応した飼料生産基盤の強化や地域の中心的な担い手となる参入企業の規模拡大支援に関係機関と連携して取り組みました。

繁殖牛飼養戸数・頭数の推移



## 2 活動の内容

### (1) 公共牧野の牧養力向上

公共牧野面積は増加していますが、農家戸数は減少傾向であり、一戸当たりの管理負担が増加した結果、牧養力向上が重要な課題となっています。対策会議を定期的に行い、牧野整備から利用に係る課題を関係機関で協議し対応しました。

#### ① 公共牧野調査の実施

町内の全ての公共牧野を対象に、牧野の状況、維持管理方法、今後の活用等について問題点や要望を調査。調査結果をとりまとめ関係機関と情報共有しました。

#### ② 放牧研修会・現地指導会の開催

シバ型草地造成方法、雑かん木対策等について研修会を開催しました。

#### ③ シバ型草地造成実証

牧養力が低下していた牧野を対象に、シバ新品種「たねぞう」を用い不耕起播種法によるシバ草地の造成技術を実証しました。

### (2) 稲WCSの生産拡大

平成25年に「隠岐の島町自給飼料利用推進調整協議会」を設立し、組織的な稲WCSの生産供給が開始されました。繁殖牛の増頭による需要増加と水稻農家の転作のさらなる拡大に対応するため、稲WCSの生産拡大に向け協議会の運営支援を行いました。

#### ① 稲WCSの単収の向上・安定化

栽培暦を作成し栽培説明会、圃場巡回指導を実施しました。

#### ② 稲WCSの品質向上

適期収穫を行うため収穫前ほ場巡回を実施しました。コントラクターの収穫作業受託面積の増加に対応するため早生や晩生品種の実証ほ設置し、収穫時期の分散に係る品種選定等を支援しました。



< 稲WCS収穫の様子 >

### (3) 参入企業規模拡大支援

肉用牛産地拡大のため、規模拡大中の参入企業を関係機関と連携して支援しています。

#### ① 経営検討会への参加

毎月、検討会に参加し定期的に経営状況や問題点を情報共有し改善対策を実施しました。

#### ② 放牧牛の飼養管理及び牧野管理技術の向上

放牧牛、特に育成牛の発育、栄養度調査を実施し、冬季の飼養管理改善について検討を行いました。また、雑かん木除去やシバ播種による牧養力向上対策を実施しました。

#### ③ カラス被害対策の実施

繁殖牛がカラスに啄まれる等の被害が多発したため、先進地視察を行い、カラス檻を設置するとともに、牛舎等への侵入防止対策を強化しました。

## 3 活動の成果

### (1) 公共牧野の牧養力向上

#### ① 公共牧野調査台帳の整備

町内の全体の公共牧野の状況や要望を把握。整備計画や対策推進の基礎資料として活用しました。利用者の要望を反映した効果的な対策を推進することができました。

#### ② シバ型草地造成技術の確立

播種したシバは順調に生育し、翌年の秋にはマットが形成され被度が向上しました。不耕起播種と放牧管理により、広い面積でも比較的容易にシバ草地が造成可能であることが実証できました。シバ草地化への生産者、関係者の関心を高め、平成28年度は取組みを拡大し、3箇所の公共牧野で実施しています。



<シバ：播種後3ヵ月>



<シバ：播種後16ヵ月>

### (2) 稲WCSの生産拡大

稲WCSの作付面積は平成25年度の11.7haから平成28年度には32haに拡大しました。受託面積も6.8haから18.2haに拡大し、畜産農家への稲WCSの供給量が増加しました。協議会を設立して以降、毎年度、目標以上の平均単収を確保し、平成28年度では8.7ロールとなりました。稲WCSの生産利用が定着し、畜産経営での飼料コストの低減がすすみました。

### (3) 参入企業の規模拡大支援

公共牧野や稲WCSの利用増加により飼料コストの低減が図られました。カラス被害対策の実施によりカラスによる牛の重症事例の発生がなくなりました。冬季の放牧牛の発育改善は引き続き課題となっており、牧養力の向上とあわせて対策を継続していきます。関係機関と連携した取組みの継続により、繁殖雌牛飼養頭数、子牛出荷頭数ともに順調に増加しました。農業研修生等の受け入れの場として、地域の畜産振興をけん引されています。



<カラス捕獲檻>

### (4) 繁殖和牛の生産拡大

地域一体となった取組みにより、隠岐の島町では飼養頭数が年々増加し平成27年度では454頭と平成22年度より52%増加し、それに伴い、子牛出荷頭数も増加しました。

## 4 残された課題と今後の展開今後の普及活動に向けて

新規就農希望者の受け入れ体制の整備、新規就農者の確保、大規模経営体の育成等の担い手づくり、公共牧野整備による放牧場の拡大・牧養力向上、水田等を活用した自給飼料生産拡大等による低コスト省力生産の取組みを強化し、肉用牛生産拡大による産地活性化が図られるよう、引き続き関係機関と連携して支援を行っていきます。